

幹協主催「分会間交流」報告②



議題として「申1号」団体交渉の経過報告、議論が行われました。報告では実際に申1号の団体交渉に出席した幹協幹事が、交渉のポイントや会社に対し特に強く訴えた点、会社の返答、この団体交渉で確認できたこと、意見が合わなかった事などについて参加者に報告しました。

その後の議論では、団体交渉の内容や会社回答について、幹事と参加者が一体となって活発な議論が行われました。参加者からは「最近、トライアルと称して何でもやらせようという風潮が蔓延していないか？業務で一番に優先されるのは安全であるべきだ」「組合員、未加入者問わず問題だと声が上がっていた内容を団体交渉の場で取り上げることができた。職場で返したところ、団体交渉をしてくれくのは本当にありがたいと未加入者から感謝された」「先日、経営幹部がとある社内イベントで『将来には70歳まで働ける会社を目指さなくてはならない』と述べていて驚いた。今の現実を見ると不可能であると感じた」・・・等々、様々な意見が出され議論は大いに盛り上がりました。

最後に佐藤事務長より、「団体交渉で強く感じたのは、今回だけではないが『現場の声を受け止める』と会社は言いながら実際には数値やデータしか見ておらず、現場との乖離ができていることをそもそも認識していないのでは？ということである。一方で継続議論となっていた郡山駅の滑走について、会社から併合運転を行うという点についてかちとる事ができた。団体交渉を行ったからこそその成果である。今後も新幹線協議会として要求実現に向け運動を継続していこう！」とのまとめがありました。